

オーディオ実験室収載

TIDAL を楽しむ(6) —Brooklyn DAC+による MQA 再生(3)—

1. 始めに

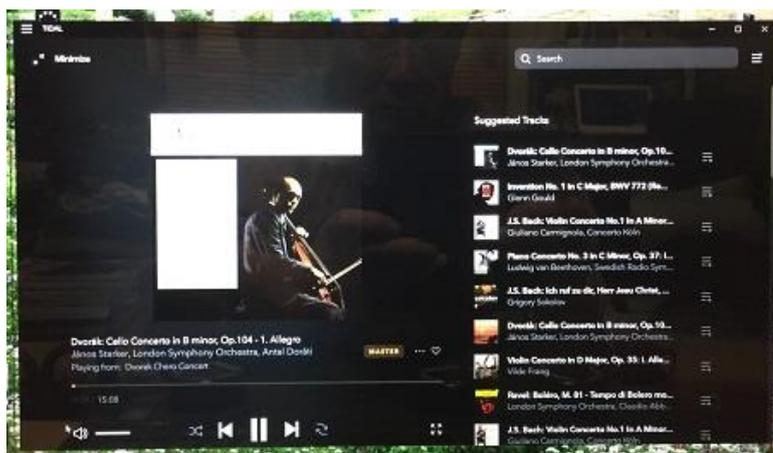
前報(3)で Brooklyn DAC+による MQA 音源再生の目途が立ちましたので、実際にいくつかの音源を再生してみます。

2. TIDAL による MQA 再生の試聴方法

試聴方法は前報(3)のとおりとします。

音源として選んだのは、ドボルザークのチェロ協奏曲で、Dvorak で検索をかけると、次のような演奏が出てきます。

シュタルケル(Vc) アンタール・ドラーティ指揮ロンドンシフォニーオーケストラ



ロストロポーヴィッチ(Vc) カラヤン指揮ベルリンフィル



ジャクリーヌ・デュ・プレ(Vc) バレンボイム指揮シカゴシンフォニーオーケストラ



これらはすべて **Master Quality** の表示があり、再生すると **Brooklyn DAC+** の表示は **96KHz24bit** となります。この他、ジャクリーヌ・デュ・プレの演奏は **HiFi** グレードのものも出てきて再生すると **Brooklyn DAC+** の表示は **44.1KHz16bit** となります。

これらの楽曲を **Play List** として新しく **Dvorak Cello Concert** を作成し、曲のハートマークをクリックして当 **Play List** を指定すると、そこに収載されます。また、再生対象の **Credit** を見て、その由来を知ることができました。

3. TIDAL による MQA 再生の試聴結果

音質的には、ジャクリーヌ・デュ・プレの **HiFi** グレードのものは、標準的な **CD** レベルの音ですが、それ以外はかなり満足度の高いものです。**Master Quality** の再生では、それぞれの奏者の解釈やバックのオーケストラの響き具合も聴き取りやすくなっています。

4. まとめ

検索のかけ方、**Play List** の作り方、**Credit** の見方を習得し、同じ曲の演奏の違いを聴き分けられるようになりました。

以上